

古きよき時代をしのんで、築地・月島・佃島界隈を。



1 街並み散歩

明治43年、東京市立図書館として設置されたのち、昭和25年、中央区に移管された。区内の中心図書館として、豊富な図書、CD、ビデオを提供している。また、障害を持つ方のために、郵送による配本サービスや対面朗読サービスを実施。蔵書数、約27万冊。

築地1-1-1 中央区役所地下1階

2 桂川甫周屋敷跡

桂川家は代々、幕府の奥医師としてこの地に住んだ。四代目甫周は杉田玄白らと「解体新書」の翻訳に参加。後に外科術を学んで幕府医官となった。また、外国事情にも精通し、「魯志亜志」などの著者もある。

築地1-10-5

3 築地本願寺

京都の浄土真宗西本願寺の東京別院。元和3年(1617)に第12世准上人が横山町に創建したが、明暦の大火で焼失。現在地に移った。境内には、九条武子歌碑、赤穂義士間新六供養塔、画僧酒井抱一の墓、芭蕉句碑などがある。

築地1-15-1

4 勝鬨橋

全長246m、中央部80mが上方へ70度はねあがる可動橋。当初は1日5回20分間づつ開いていたが、橋上の交通の激化と、東京港の整備により大型船の通過もなくなったため、昭和45年点検開橋以来、開閉は行っていない。

築地6-19～勝どき1-13

5 月島西仲通り

通りをはさんだ両側のアーケードに、公衆浴場、もんじゃ焼の店、洋服屋など、昔ながらの商店がならぶ気さくな商店街である。通りから左右につづく路地には鉢植えの花が並び下町の香りを漂わせている。

月島1-2～月島3-27

6 佃島

徳川家康に従って江戸へ下った摂津・佃村の漁師が1644年に築いた島である。関東大震災や戦災での被害を受けなかったため、街並みに大正期の面影をとどめている。また、当時の漁師が貯蔵食として考案した「佃煮」発祥の地。

佃1～3丁目

7 住吉神社

摂津の佃村の漁師が徳川家康に従って江戸へ下った時(1590)、大阪の住吉神社から分祀され正保3年(1646)現在地に遷座しました。社前が廻船の港であったことから、廻船問屋筋の信仰が厚い。境内には、五世川柳水谷録亭の碑、鯉塚などが建てられている。

佃1-1-14

8 佃大橋

全長220m、幅25m。昭和39年に架橋された。1645年に開始された渡船による「佃の渡し」は、住民にとって欠くことのできない交通機関であった。1日1万人前後の人に利用されていたが、佃大橋の架橋とともに姿を消した。

月島1-1～湊3-18

9 明石町6～8界限

隅田川岸のこの一帯は播州明石の風景に似ていたことが地名の由来になったと伝えられる。浅野内匠頭邸跡、アメリカ公使館跡、そして芥川龍之介生誕の地と江戸からの歴史をしのぶ旧跡が数多く残っている。

明石町12-1 (中央区保健所等複合施設)
TEL:03-3546-5537

10 タイムドーム明石(中央区立郷土天文館)

タイムドーム明石は、1590年の徳川家康江戸入府以後の中央区発展の歴史をテーマ別に紹介する「郷土資料の常設展示室」・6台の液晶プロジェクターによる全天デジタルプラネタリウムシステムと5.1CHデジタルドームサラウンドの音響システムにより、鮮明かつ迫力ある映像と音楽が楽しめる「プラネタリウム」・個人や団体の創作活動(絵画・写真等)を発表する場所として利用できる「区民ギャラリー」の3つのコーナーがあります。

11 蘭学事始の地

安政5年(1858)、豊前中津藩士の福沢諭吉がオランダの学問を教えるため、この地に塾を開いた。当初は5～6名ほどの塾生でスタートしたが、慶応4年(1868)、芝に塾を移し、時の年号をとって「慶應義塾」と名付けた。

明石町10先

12 慶應義塾開塾の地

安政5年(1858)、豊前中津藩士の福沢諭吉がオランダの学問を教えるため、この地に塾を開いた。当初は5～6名ほどの塾生でスタートしたが、慶応4年(1868)、芝に塾を移し、時の年号をとって「慶應義塾」と名付けた。

明石町10先

13 ガス街灯柱

柱頭型の街灯柱で高さ3.4m。明治元年開設の築地居留地内にあったものが、関東大震災後、現在の明石小学校に移された。東京の都市ガス事業は明治7年に始まり、当時の外人居留地の風物を代表していた。

明石町1-15 明石小学校

14 聖路加国際病院

都内でも屈指の総合病院。築地居留地の診療所を明治35年米人医師トイスラーが聖路加国際病院として再建した。現在の病院は平成4年に完成。隅田川辺の聖路加ガーデンは高さ220m余り、中央区一のノッポビルです。

明石町9-1